

施策評価シート (平成23年度の振り返り、総括)

作成日 平成24年 06月 15日

施策 No.	13	施策名	国際交流の推進
主管課名	安全安心課	電話番号	0285-83-8719
関係課名	学校教育課、市民課		

施策の対象	1) 市民(在住外国人)								
対象指標名	単位	17年度実績	18年度実績	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度実績	26年度見込
人口(外国人を含む)	人				83,392	82,997	82,584	82,136	85,500
在住外国人(登録人口・内数)	人				3,936	3,632	3,466	3,326	4,000

施策の意図	1) 市民が主体的に国際理解を深め、国際交流をしてもらう。 2) 在住外国人に暮らしやすい環境をつくる。								
成果指標設定の考え方及び指標の把握方法(算定式など)	安全安心課及び真岡市国際交流協会にて把握。 国際交流を日頃から行っている割合は、市民意向調査による。 暮らしやすい環境をつくるという意図に対しては、外国人相談窓口に来る人の割合を指標とした。 (算定式：相談者延べ人数1,053人 / 登録者数3,326人) 姉妹都市等との交流窓口である国際交流協会をもって、交流に積極的な市民の数として捉えられる。								
成果指標名	単位	17年度実績	18年度実績	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度実績	26年度基本計画目標値
国際交流を日頃から行っている市民の割合	%				14.2	14.0	12.2	11.7	20.0
外国人相談窓口に来る人の割合	%				16.3	20.8	23.1	31.7	18.0
国際交流協会員数	人				283	299	302	297	320

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	市民は、国際理解と国際交流に積極的に関わる。 行政は、市民の国際理解と国際交流のきっかけをつくる。								
-------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

1. 施策の成果水準とその背景（近隣他市や以前との比較、特徴、その要因と考えられること）

（1）施策成果の時系列比較（過去3年間の比較）

交流事業

姉妹都市交流・友好都市交流事業は、市内の中学校を主体に実施しており、各校間の親善訪問件数は、平成21年度2件、平成22年度7件、平成23年度3件である。平成21年度にはインフルエンザのため中止、平成23年度には東日本大震災の影響などがあった。

外国人登録者数

平成24年3月末日現在の外国人登録者数は、3,326人で、県内他市に比較して外国人の登録人口が多く、全人口に占める外国人の比率は4.05%と高い。平成元年以降の状況を見ると、平成20年12月の3,991人をピークに平成21年からは減少傾向にある。平成21年度：36カ国3,632人、平成22年度：33カ国3,466人、平成23年度：30カ国3,326人である。

外国人相談窓口に来た人の割合

相談窓口に来る外国人の延べ人数は、毎年増加している。平成20年度：642人、平成21年度：756人、平成22年度：801人、平成23年度：1,053人で、相談内容の主なものは、外国人登録や戸籍、住居やごみ問題などの生活全般に関する相談が第1位となっている。第2位が税金関係、第3位が福祉・医療全般、第4位が日本滞在関係、第5位が労働に関する相談でした。

（2）近隣他市との比較

外国人相談件数の比較（平成23年度の県内実績）

真岡市の年間相談件数は、県内第3位で1,076件で、第1位が宇都宮市の2,815件、第2位が小山市の1,354件となっている。

（3）住民期待水準との比較

国際交流を行っている市民の割合については、姉妹校の交流が定着してきたことから、横ばいで維持してきたが、平成23年度においては、震災等の影響により姉妹都市交流や友好都市交流などの事業が出来なかった。

そのため、平成23年度の国際交流を日頃から行っている市民の割合は、0.5%減少し、11.7%であった。

23年度の
評価結果

2. 施策の成果実績に対してのこれまでの主な取り組み（事務事業）の総括

交流事業

・アメリカ合衆国グレンドーラ市と姉妹都市交流、台湾斗六市と友好都市交流を行っている。

・姉妹校交流は、アメリカ合衆国グレンドーラ市のガガード中（真岡東中）、台湾斗六市の正心高級中（真岡西中）、中国北京市の北京第五中（大内中）、オーストラリア オーストラリンド市のオーストラリンド中（真岡中）、アメリカ合衆国グレンドーラ市のサンドバーグ中（中村中）、アメリカ合衆国ボルチモア市のサドブルック中（山前中）の交流を行っている。なお、二宮地区の長沼中、久下田中、物部中は海外派遣を行っている。

・世界的に著名な中国の芸術家・韓美林先生との交流を深め、芸術・文化に関する相互理解の推進を図った。

・ロータリークラブの他、民間団体や個人が国際交流を積極的に実施している。

暮らしやすい環境

・失業外国人等支援事業として、生活相談、日本語学習支援、行政文書の多言語化、窓口での通訳補助などを実施した。

・NPO法人「SAKU・ら」及び「わたの花」が在住外国人のための日本語教室を開設し、これを真岡市国際交流協会が支援した。

・各種国際交流事業を実施している、国際交流協会を支援した。

・家庭内や友人間の言語の壁を取り除くために、新たに開設されたポルトガル教室「BRASMO」に対して、真岡市国際交流協会が支援した。

・市民との国際交流イベント開催（もおか木綿ふれあい祭り、イヤードパーティー、料理教室等）

・市長と外国人住民との懇談会を実施、25名の外国人が参加した。

・多国籍市民「日本語スピーチコンテスト」を開催し、10人の外国人が出演し、68人の外国人が参観した。

<p>23年度の 評価結果</p>	<p>3. 施策の課題認識と改革改善の方向</p>
	<p>本市は、人口に占める外国人登録者数の割合が高く県内第1位であることから、市民が外国人と接する機会は、他市町に比して、必然的に多くなります。これらとともに、外国人に対する偏見や理解不足によるトラブルなども発生する恐れがあります。</p> <p>多国籍・多文化の外国人と共生する地域づくりを推進するためには、行政主導型の地域づくりでは限界があり、民間団体や市民レベルの国際交流の推進が必須となってきている。</p> <p>これにより、国際理解の輪を広めて、区町会や地域、学校や子ども会などで国際交流事業の推進を図り、地域や団体、市民レベルによる多文化共生社会の実現を目指す。</p> <p>改革改善の方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全で安心な生活を目指した支援の強化として、通訳相談員の継続雇用による外国人相談窓口の充実する。 ・国籍を越えた相互理解による不安軽減を図るため、民間団体や市民レベルでの交流事業やイベント等開催を支援する。 ・市民と協働のまちづくりを目指して、国際交流事業推進体制の整備と組織体制の強化見直しを実施する。 ・多文化共生社会の実現のため、国際交流協会を支援するとともに、独立運営に向けた整備検討を進める。
<p>補足事項</p>	